

□ 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、本文に一部表記を改めたところがあります。)

きちんと機能している社会、安全で、そこそこ豊かで、みんながルールをだいたい守っている社会に住みながら、かつ「責任を取ること」を人から求められないで済む」生き方をしようと思ったら、やることはひとつしかありません。

それは「A」という言葉を使うことです。考えればすぐわかります。構成員全員が「オレには責任ないからね」と言い募り、※不祥事の責任を誰か他人に押しつけよう※汲々としていた社会と、構成員全員が自分の手の届く範囲のことについては、「あ、それはオレが責任を持つよ」とさらっと言ってくれる社会で、どちらが「誰かが責任を取らなければならないようなひどいこと」が起こる確率が高いか。

まことに①逆説的なことではありませんが、「オレが責任を取るよ」という言葉を使う人間がひとり増えることに、その集団からは「誰かが責任を取らなければならないようなこと」が起きる②リスクがひとつずつ減っていくのです。集団構成員の全員が人を差し置いてまで「オレが責任を取るよ」と言う社会では、「誰かが責任を取らなければならないような事故やミス」が起きて、③「誰の責任だ」というような議論は誰もしません。そんな話題には誰も時間を割かない。だって、みんなその「ひどいこと」について、自分にも責任の一端があったと感ずるに決まっているからです。「この事態については、オレにも責任の一端はあるよな」と思って、a ナイシン※忸怩たる人間がどうして「B」というような他罰的な言葉をべらべら口に出すことができるでしょうか。

長くなりましたので、b ケツロンを申し上げます(もう申し上げますけど、まとめ)。
責任というのは、誰にも取ることでできないものです。にもかかわらず、責任というのは、人に押しつけられるものではありません。自分で引き受けるものです。というのは、「責任を引き受けます」とセリゲンする人間が多ければ多いほど、「誰かが責任を引き受けなければならぬようなこと」の出現確率は※逡減してゆくからです。

どのような社会的な概念も、人間が幸福に、豊かに、安全に生き延びるためにd コウアンされたものです。「責任」という概念もそのひとつです。
「責任」は、「鍋」とか「目覚まし時計」のように、実体的に存在するものではありません。でも、④それが「ある」というふう考えたほうが良いと昔の人は考えた。それをどういうふうにかに扱おうのかについて、エンドレスに困惑することを通じて、人間が倫理的に成熟してゆくことを可能にする、遂行的な概念だからこそ、作り出されたのです。

(内田 樹 「困難な成熟」)

※不祥事…:好ましくない事柄。
※汲々…:ゆとりのない様子。
※忸怩…:自分の行いなどについて、自分で恥ずかしく思うさま。
※逡減…:次第に減ること。

問1 || a~dのカタカナを漢字に直しなさい。

a
b
c
d

問2 A B に入る言葉として適切なものを、次のア~オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ア オレに責任なんてないよ
 - イ 責任者出てこい
 - ウ 誰にも責任はとれないよ
 - エ オレが責任を持つよ
 - オ みんなに責任があるんだ
- A B

問3 | ①「逆説」とありますが、この言葉と似た意味を持つことわざを次のア~エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 虻蜂とらず
 - イ 月とすつぼん
 - ウ 負けるが勝ち
 - エ 弱り目に祟り目
-

問4 | ②「リスク」とありますが、この言葉と反対の意味の言葉を本文中から漢字二字で探し、抜き出して答えなさい。

問5 | ③「誰の責任だ」というような議論は誰もしません。」とありますが、それはどうしてですか。それがわかる一文を本文中から探し、初めの五字を抜き出して答えなさい。

問6 | ④「それ」の指す内容を本文中の言葉を使って二十字以内で答えなさい。

問7 本文の内容と合致するものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の力量を省みることなく、どんなことに對しても「オレが責任を取るよ」と言う姿勢が大切だ。
- イ 「誰の責任だ」という責任を問う人間が増えるほど、「ひどいこと」が起こる確率は確実に下がる。
- ウ 責任は誰にも取ることができないものであり、したがって他人に押しつける他に方法はない。
- エ 「責任」という概念は、他の社会的概念と同様に、人間の発展のために必要なものとして作りだされた。

□ 次の各問いに答えなさい。

A 次の①～④の文の傍線部はそれぞれどこにかかりますか。記号で答えなさい。

- ① バラのきれいな花が並んで咲いている。
- ア きれいな花が
- イ 花が
- ウ 並んで
- エ 咲いている

② たとえ忙しいときでもしっかりと朝ご飯を食べる習慣を持つ。

- ア 朝ご飯を
- イ 食べる
- ウ 習慣を
- エ 持つ

③ どんぐりはやっぱりお山が恋しいと、泣いてはどじょうを困らせた。

- ア お山が
- イ 恋しいと
- ウ 泣いては
- エ 困らせた

④ 彼はあらゆることを知っているかようだった。

- ア ことを
- イ 知って
- ウ いるかの
- エ ようだった

B 次の①～④の三字熟語の成り立ちを、後のア～エの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 高品質
- ② 図書館
- ③ 非公式
- ④ 衣食住

- ア 三字が対等の関係。
- イ 上の一字が下の二字の言葉を※修飾する。
- ウ 上の一字が下の二字の言葉を打ち消す。
- エ 上の二字が下の一字の言葉を修飾する。

※修飾…くわしく説明すること。

①

②

③

④

C 次の①～③の文の()に入る言葉を、それぞれ二文字のひらがなで答えなさい。

- ① 心に() た先生の言葉が忘れられない。
- ② 心を() にして処罰する。
- ③ 日ごろの心() が良いと、幸運に恵まれる。

①

②

③